

薬用作物（ヤマトトウキ）の生産振興

要約

宇陀市では平成27年に宇陀市薬草協議会を設立。ヤマトトウキ等の生産振興に取り組んでいる。一般にヤマトトウキの種子や苗は入手が難しいことから、協議会で種苗生産を実施しているが、生産希望者への供給は満たしていない。

この課題解決に向け、採種から苗供給までの体制確立と、生葉・根の生産技術の向上と省力化の検討に取り組んだ。

現状(背景)と課題

(現状)

- ・ヤマトトウキの栽培面積 62a
- ・ヤマトトウキの生葉生産量 1 t
- ・ヤマトトウキの根生産量 400kg
- ・ヤマトトウキの苗生産本数 35,500本

目標

- ・ヤマトトウキの栽培面積 72a
- ・ヤマトトウキの生葉生産量 1.3 t
- ・ヤマトトウキの根生産量 650kg
- ・ヤマトトウキの苗生産本数 38,000本

活動内容

①栽培講習会、巡回指導

- ・宇陀市薬草協議会主催による講習会において、栽培技術指導を実施。
- ・宇陀市担当者、県研究員とともに、栽培のポイントとなる時期に栽培圃場で巡回指導を実施。

②採種指導、秋播き育苗実証圃、機械収穫現地実証

- ・採種、苗生産では請け負う生産者を選定。採種では防虫ネットを利用した害虫対策等を指導し、発芽率が80%を超える優良な種子を確保。育苗ではビニールハウスやビニールトンネル等の活用やポット育苗等、育苗方法を比較する実証圃を設置。
- ・収穫作業の省力化として、トラクターに収穫用のアタッチメント（ディガー）を取り付け、根の収穫実演を実施。

成果

- ・ヤマトトウキの栽培面積 66.2a
- ・ヤマトトウキの生葉生産量 1.3 t
- ・ヤマトトウキの根生産量 474kg（見込）
- ・ヤマトトウキの苗生産本数 80,000本



防虫ネットを利用した採種



収穫用アタッチメントを取り付けての根の堀取り

東部農林振興事務所農業普及課
担当：農産物ブランド推進係 平岡、神川
薬用作物生産振興促進事業

普及活動のポイント

ヤマトトウキの栽培は1年目は苗づくり、2年目は生葉や薬用となる根の生産、3年目に採種となる。このため採種と苗づくりを分業化し、2年目の栽培から参入できる仕組みを作るとともに、採種と苗づくりを担う人の選定と濃密指導による種苗の安定確保に重点を絞って活動した。

対象の変化

- ・新たに3名の生産者が種苗生産を担うこととなったが、安定した成果を得られたことに加え、次年度は更なる面積拡大を計画しており、優良モデルとしての活躍が期待される。

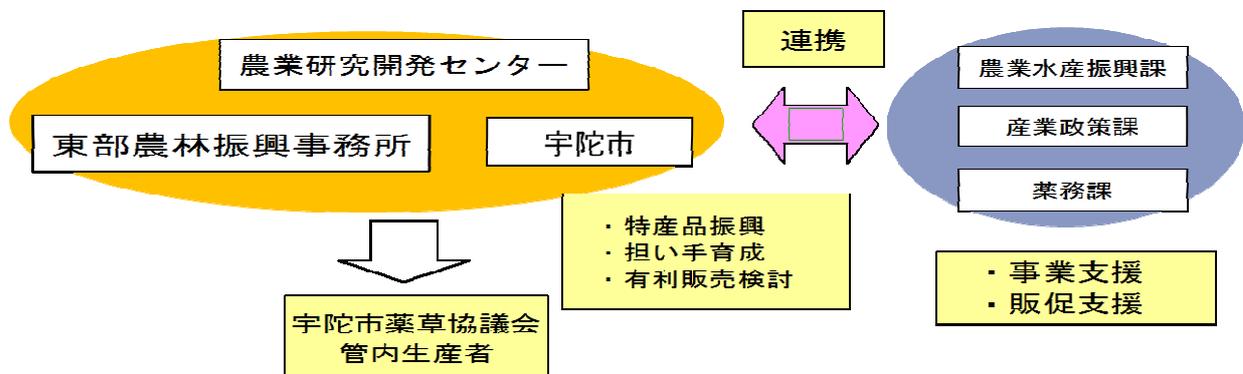
対象者からのコメント

- ・市協議会より採種、苗づくりの依頼を受け初めて取り組んだが、適切な指導をいただき、満足いく結果が得られた。トウキの栽培に取り組んでまだ3年なので、今後ご指導いただきたい。(生産者)

これからの活動ビジョン

- ・採種、育苗の分業化体制の確立に取り組む。
- ・本圃定植後に枯死する株が発生し問題となっているので、苗質・定植後の栽培管理等、問題点の把握と対策を検討する。
- ・機械収穫等、省力化技術について、オペレータの育成活用等、普及方法を検討する。
- ・株間を狭めての密植栽培等、生葉生産に特化した栽培技術の現地実証を実施する。

活動体制



用語解説

ヤマトトウキ

トウキはセリ科シシウド属の多年草。

乾燥させたトウキの根は生薬として、冷え性、血行障害、強壮、鎮痛などに効果があるといわれており、当帰芍薬散、十全大補湯、四物湯など多くの漢方薬に配合されている。

ヤマトトウキの他にホツカイトウキ等の品種があるが、ヤマトトウキは品質の高さで知られている。

平成24年より、葉の部分が「非医」扱いとなったことから、トウキ葉の有効利用が注目されている。

